

令和5年度第1回豊川市環境審議会 議事録

日時：令和5年11月2日（木）

午前10時00分～午後0時10分

場所：豊川市勤労福祉会館

1階 視聴覚室

■出席者

（委員）

藤田 佳久（愛知大学 名誉教授）

大門 裕之（国立大学法人豊橋技術科学大学 教授）

加藤 勝敏（浜松学院大学 教授）

田中 みや子（愛知県地域環境保全委員 代表）

石原 勝好（豊川商工会議所総務運営委員会 副委員長）

安藤 和史（豊川市連区長会 元理事）

溝口 隆文（ひまわり農業協同組合 総合企画部長）

浜口 比呂子（エコ☆はじめの一步 役員）

笠松 由美（とよかわ里山の会 監事）

西野 正洋（東三河総局県民環境部環境保全課 課長）

菅沼 由貴子（豊川市教育委員会 教育委員）

（事務局）

産業環境部長 増田 孝道

産業環境部次長兼環境課長 大澤 潤一

清掃事業課長 二村 崇

清掃事業課主幹 岡本 譲

清掃事業課主幹 山本 昌也

環境課課長補佐 安藤 清

清掃事業課課長補佐 伊藤 純子

環境課環境政策係長 皆川 恭子

■議 題

（1）豊川市環境基本計画2020実施計画の進捗状況について（令和4年度実績）

■会議内容

（事務局）

1 あいさつ

産業環境部長よりあいさつ

各委員自己紹介

事務局紹介

会議の成立について

委員13名中、11名の委員が出席しているため、豊川市環境基本条例第27条第2項に規定する定足数を満たし、審議会が成立しましたことを事務局より報告。

2 会長及び副会長の選任

会長は、愛知大学名誉教授の藤田佳久委員にと推薦があり、全会一致で承認。副会長には、藤田会長が大門裕之委員を指名した。

3 議題

(1) 豊川市環境基本計画2020実施計画の進捗状況に対する質疑

(委員)

40ページの浄化槽普及事業について、下水道が普及していない区域での状況についてどのように把握しているのか。

(事務局)

下水道区域は88%、残り10%少しが区域外。単独浄化槽が174件程度、汲取便槽が32基の利用があり、単独浄化槽や汲取便槽からの転換のため補助事業を実施している。

水質汚濁は、県の管轄で、連携しながら普及啓発等に繋げていきたい。

(委員)

共同浄化槽のようなものは、対象にならないのか。

(事務局)

個人の世帯における浄化槽の転換の補助となっている。

(会長)

合併浄化槽に至っていない地区別等の特徴はあるのか。

(事務局)

地区別の違いについて把握していない。

(会長)

来年の目標件数が9件。目標達成は可能か。

(事務局)

過去の実績値等を踏まえての目標となっている。

(会長)

6月2日の豪雨の対応は。

(事務局)

浸水のあった家屋の消毒作業を行うなか、単独浄化槽の世帯は早急に消毒作業を行った。

(委員)

25ページのジモティーについて、実績は把握できるのか。

(事務局)

粗大ごみ等で排出されたもので、清掃等した後、ジモティーへ月10件程度計上し、引き取り希望を募り、計上した数値が今後の指標となるが、市民の個人間でのやりとりま

では把握できない。

(委員)

36 ページのごみ量の件。コロナ禍の終息で、事業系のごみ量は増加すると考えているか。

(事務局)

清掃工場での焼却等処理は数字が上がっている。収集量の傾向としては家庭からは微減。また、R5 は大型商業施設の開店も含めて概ね 2,000~3,000 トンぐらいは増加する予想。

(委員)

豊川の農業製品・農産物がもっと給食に生かされるようになれば良いと考える。

(委員)

実施計画、実績報告書の記載方法等についての助言。

(事務局)

実施計画、実績報告書の記載方法等については、意見を参考に今後も改良していく。

(委員)

環境審議会は、市全体の様々な事業に関わることから、市の中で審議会の位置づけを検討していただけるとよいと考える。

広域化を含め将来のごみ処理費用についてどのように考えていくのか。また、浜松市のごみ処理の有料化を踏まえ、費用負担をどうしていくのかという市の考えを伺う。

(事務局)

ごみ処理費用は、清掃工場等の維持管理費や可燃ごみ週 2 回の回収、資源ごみは週 1 回の回収をしている中で増額となっている。

一方で、こういったコストをかけることで、ごみ処理に関する市民の皆様の満足度は極めて高い評価となっている。今後も他市等の事例を研究する。

ごみ処理の有料化は現在のところ考えていない。

(委員)

公共料金は、人口が減ると 1 人当たりの金額が高くなる。そのことを地域の人に知ってもらう必要があり、今の人が、20 年後 30 年後の負担額を提示し、それによってその世代間の格差を減らしていくことを徐々に、意識を啓発しながら進めていく必要があると考える。

(委員)

豊川市の家庭からのごみ排出量県内でもワーストスリーである一方、ごみ処理費 1 人当たりは県内では非常に少ない方である。ただし、将来に向けた議論をしていないので、検討が必要かと感じる。

(委員)

私の周りの方に聞いても、満足度は高い方だと思うので、有料化は賛成しかねる。

(委員)

将来的には検討しないといけないと思う。

(委員)

報告書でも、周知活動を徹底するという部分が多くあることから、具体的な改善策も提示していただきたい。

(会長)

後はよろしいか。

(委員)

ごみ袋の件で、市のごみ袋は価格が非常に安い。他県では非常に高いと思われる。ごみ袋に転嫁する方法もあると思うが。

(事務局)

ごみ袋については、規格だけを提示し、業者が自由競争状態で販売している。ごみ処理有料化として袋の代金に有料化分を加算しているところもある。

(委員)

土地区画整理事業は環境側から見ても、判断しかねる問題が多い。個人的には外してもいいのではないかなと思うが。

(事務局)

区画整理は、下水、まちづくりの中の仕組みや機能等、非常に環境と関係があり、切り離せないものである。区画整理が環境自体の問題が幅広いことをご理解いただき、このまま入れていただきたいと思う。

(委員)

区画整理事業を行うものですので、進捗管理としても分かりにくいと考える。

(事務局)

今後、指標をよく出しながら、次回の改定の際には検討する。

(会長)

太陽光発電の農地に設置をどう考えていくのか。

(事務局)

農業でも太陽光の問題は大きく、どのように太陽光の設置を許可するのか問題である。

(委員)

農地の太陽光パネルが増えた結果、目標達成で良いかという点も含めて考察いただきたい。

(会長)

環境審議会が多少ほかの審議会より少し上に位置づけるということは可能なのか。

(事務局)

市の上位の計画は総合計画である。

(事務局)

審議していただく事項、皆様から意見をいただきたく事項は、今後増え続けると考えるため、ご協力をよろしくお願いしたい。

(事務局)

環境審議会は条例に位置付けたものであるため、何番目ということは申し上げられないが、条例に位置付けられている審議会であるため、大変重要な機関だと思っている。

会議終了